

秩父盆地の堆積時の古環境

石間戸の集落の南側の吉田川河床では、堆積時の古環境を推定するのに有効な「**生痕**」や「**斜交葉理**」を観察することができます。



細粒砂岩中に見られる生痕

斜交葉理。

全体の層理の方向に対して葉理が斜めになっており（フォアセット葉理）、古流向の判別にご利用されます。



地層はその堆積する環境によって、運搬・堆積の様式が異なります。そのため地層を観察する際は、個々の地層の堆積構造や特徴だけでなくその重なりや広がり（堆積相）に注目して古環境を推定していきます。

例えば、下図は沿岸洲における堆積相の例です。

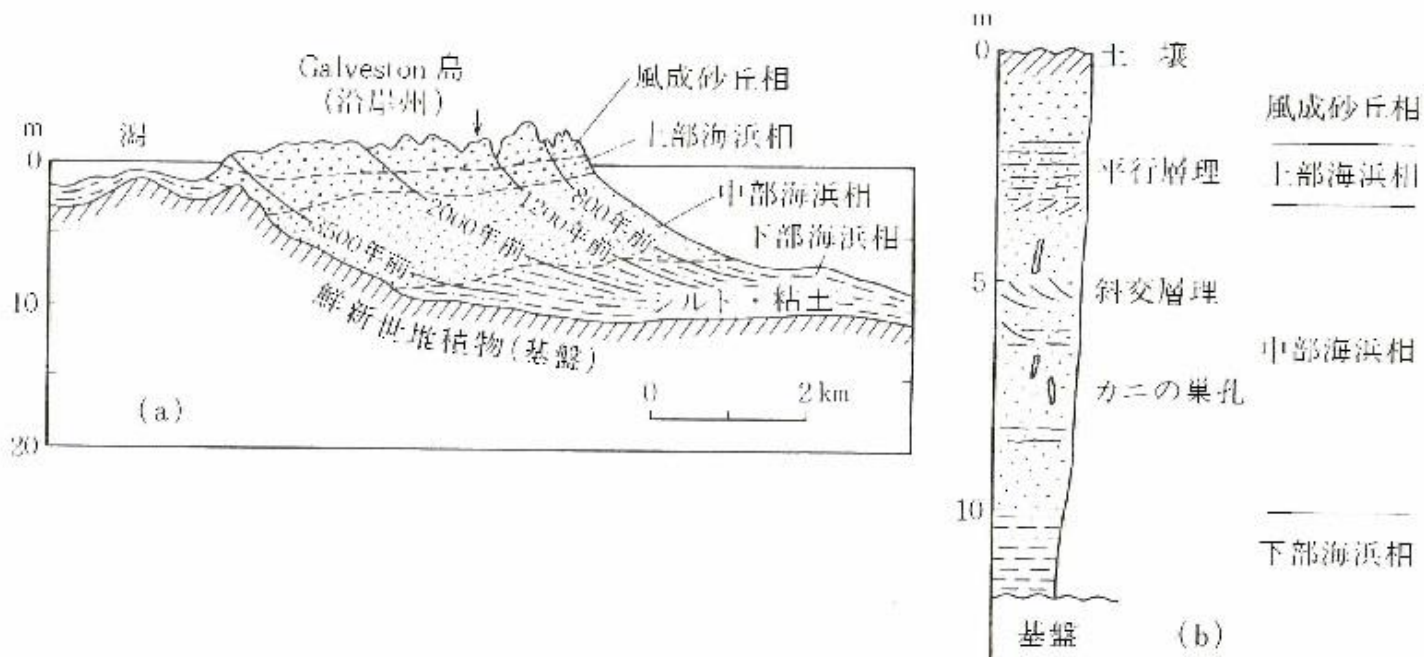


図 15.9 沿岸州相の例[5]。テキサス州メキシコ湾岸 Galveston 島沿岸州の断面(a)と矢印地点における柱状図(b)。堆積物を柱状図でみると下位から次第に浅い海の堆積物となり、上部は風成層に覆われるが、断面図に示す時代からみると沿岸州の堆積が、横方向に付加されるように起こり、岩相の境が時間面と斜交(Bernard *et al.*, 1970 を改変)[5]。平行層理，斜交層理は，それぞれ平行葉理，斜交葉理と同じ